

近畿大学経営イノベーション研究所

The Institute for Creative Management and Innovation

ニューズレター 第1号 2014.3

発刊について

経営イノベーション研究所は2010年6月1日に設立され、設立4年目にもかかわらず内外の学界から注目されてきています。それゆえ、われわれの研究成果を広く公開し、さらなる研究の深化を図る必要があるといえるでしょう。

日本有数の総合大学として、近畿大学は様々な研究所および研究センターを擁しています。しかし、現状では研究所間の交流は限定的なものであり、「近大マグロ」を生み出した水産研究所を除き、学内の教職員も互いの研究内容についてあまり情報を共有していないといった現状があります。研究所間の交流を促し、研究者相互の情報交換の場としてのニューズレターの役割は小さくないと考えています。

また、設立以来、経営イノベーション研究所の所員は、様々な場で素晴らしい研究実績をあげてきました。21世紀型のイノベーション研究は理系・文系を問わず、学問融合の中から生まれるといえます。研究所員の研究成果を広く知らせることで、他学部・他領域の研究者が研究の新たなヒントを得る契機になることも、このニューズレターに期待するところです。

この度、所員の賛同と協力を得て、第1号を発刊することができました。よりよいニューズレターを作成するために、読者諸氏に広くご意見やご感想をいただければ、幸甚に存じます。

経営イノベーション研究所所長 徐 方啓

経営イノベーション研究所のあゆみ

2010年3月	経営学部にて研究所設立準備委員会が発足
2010年6月	大学本部、経営イノベーション研究所の設立を発令、10人体制でスタート
2010年10月	オープニングセレモニーを開催、国内外から14名の顧問が出席
	日本創造学会第32回研究大会を後援
2011年10月	設立1周年記念シンポジウムを主催
2011年11月	東アジア会計基準研究フォーラムを主催
2012年5月	所員による研究報告会がスタート
2013年2月	機関誌「Kindai Management Review」を創刊、丸善から発売
2013年4月	機関誌創刊祝賀会を開催
2014年3月	「Kindai Management Review」第2巻を発刊

研究所設立記念講演会

日時：2010年10月16日(土)13:10~16:10
 会場：EキャンパスB館4階ホール
 参加者：学内外関係者120名
 司会者：徐方啓研究所長
 内容：野中郁次郎名誉所長、ポニエ・クレモンド顧問が基調講演。



研究所オープニングセレモニー

日時：2010年10月16日(土)16:40~18:00
 会場：EキャンパスBlossom Café 3階ルームA
 参加者：海外顧問等17名、学内関係者31名、学外関係者7名
 司会者：徐方啓研究所長
 内容：宗像恵副学長、野中郁次郎名誉所長、加護野忠男顧問委員会委員長、ホスト・ゲシュカ顧問が挨拶。浦崎経営学部長は顧問に辞令を交付。

研究所設立1周年記念シンポジウム

日時：2011年10月26日(水)13:10~16:20
 会場：経営学部21号館8階会議室
 参加者：55名
 司会者：徐方啓研究所長
 内容：加護野忠男顧問委員会委員長、トーマス・ワード顧問が基調講演。増田大三、浦崎直浩、吉田忠彦経営学部教授がパネリストとして加護野委員長と討議。



東アジア会計研究フォーラム

日時：2011年11月26日(土)10:30~20:00
 会場：38号館2階教室とBlossom Café
 参加者：学内外関係者47名
 司会者：浦崎直浩経営学部長
 内容：古賀智敏顧問が基調講演。日本、中国、韓国の会計学者が発表。論文集を刊行。

「Kindai Management Review」創刊祝賀会

日時：2013年4月24日(水)16:30~18:00
 会場：EキャンパスBlossom Café 3階ルームA
 参加者：学内関係者32名、学外関係者7名
 司会者：山口忠昭経営学部長
 内容：塩崎均学長、増田大三副学長、菊池敏夫顧問、白石好男丸善プラネット統括部長が挨拶。渡辺三枝子、川西重忠顧問が講演。



第1回：中国発グローバル企業の実像

報告者：徐 方啓教授（2012年5月39日）
 報告概要：近年、中国企業の台頭し、世界市場で日本企業のシェアを奪うような存在になりつつある。中国企業は本当にそこまでの競争力を持っているのか。このような疑問を持つ日本の企業経営者と研究者は多い。本報告は、ハイアール、レノボ、ファーウェイを事例にして、中国発グローバル企業の実像を詳しく説明する。



第2回：地下鉄事業の費用構造と資本投入

報告者：田中 智泰准教授（2012年7月11日）
 報告概要：本研究では、わが国の地下鉄事業者の過剰資本の程度について分析する。分析の結果、公営地下鉄は最適規模と比較して約2倍の過剰資本を抱えていることがわかった。また、三大都市圏以外の公営地下鉄では、密度の経済性と規模の経済性が存在し、東京地下鉄は密度の経済性、規模の経済性が存在しないことがわかった。



第3回：多角化戦略のジレンマ

報告者：上小城伸幸准教授（2012年10月3日）
 報告概要：本研究は企業がリスク分散やシナジー効果の追求を目指して行う事業の多角化が、既存事業の競争力を弱めてしまうメカニズムを、事業部間の相互作用の観点から明らかにする。具体的には、日本の総合重工業メーカーを事例に、企業の持続的成長と収益性の安定を狙った造船事業からの多角化戦略が、その後の造船事業の競争力を弱めてしまうプロセスを明らかにする。



第4回：財務会計のイノベーション

報告者：浦崎 直浩教授（2012年11月21日）
 報告概要：日本企業の競争優位性について企業会計の視点からアプローチし、日本経済の活性化に資する会計制度の設計について報告。主な内容は、グローバル経済と国際財務報告基準のアドプション、公正価値会計の意義と実務への応用、中小企業のための会計基準、業種別会計基準の可能性、企業開示システムの最適設計である。



第5回：企業レポーティングの新潮流

報告者：戸田 統久講師（2013年1月30日）
 報告概要：金融資本主義がその限界を露呈した昨今、社会が求める企業のありかたは、経済的価値増殖装置としての企業像から、社会的価値創造プロセスとしての企業像へと変化しつつある。本報告は知的無形資産に着目した企業レポーティングに関する議論と試行を紹介したうえで、「統合報告」を中心とした企業情報開示の可能性と方向性を報告。



第6回：利益調整とコスト変動

報告者：安酸 建二教授（2013年6月5日）
 報告概要：本研究の目的は、売上高予想から利益予想を引くことでコスト予想を取り出し、コスト予想と売上高予想との関係を利益計画や予算の観点から分析することにある。分析では、管理会計領域で用いられるコスト分析技術を取り入れ、コストを売上高の関数として捉える。分析の結果、売上高の増大予想の下でのコスト増加率は過少に予想される一方、売上高の減少予想の下でのコスト減少率は過大に予想されることが発見された。



第7回：地域情報化に関する一考察

報告者：東郷 寛准教授（2013年9月25日）
 報告概要：本研究の目的は、事例研究を通して、地域SNSをはじめとする地域メディア運営組織の情報化実践を明らかにすることである。今回の報告では、情報技術導入の「意図せざる結果」に端を発した情報技術の解釈をめぐる組織内の対立によって、組織の構造と情報化実践双方に大きな変化をもたらされた点を指摘し、その上で、情報技術－組織間の再帰的關係性を明らかにした。



第8回：知識創造教育と求められる人材像

報告者：荒川 一彦教授（2014年1月15日）
 報告概要：本報告は、21世紀の求められる人材像とマルチメディア、特にインターネット上のオープンコースウェア(OCW)を活用した体験型啓発教育について、企業人への適用も視野に、本学での模擬演習の結果も踏まえ、報告した。報告内容は、教育・教育手法の質的転換とキャリア教育などである。





2013年2月、経営イノベーション研究所が編集した機関誌「Kindai Management Review」は、丸善プラネットから出版され、丸善から発売されました。

日刊工業新聞は「日本企業の経営手法 世界に」と題する記事(2013年2月28日付)を掲載しました。

その後、内外の学界からたくさんのメッセージが編集者に寄せられました。そのうちの一部を紹介します。

近畿大学経営イノベーション研究所(大阪府東大阪市、徐方啓所長、06・6721・2332)は28日、英文経営誌「Kindai Management Review」を丸善

近畿大

プラネットから創刊する。日本企業の経営手法を分析した研究者の論文を掲載する。同研究所名誉所長の野中郁次郎一橋大学名誉教授が執筆を担当する。編集長は徐所長が務める。世

英文経営誌を創刊

界中から投稿を募り、各分野の専門家で構成する編集委員の査読を経て論文のみを掲載する。将来は年4回の季刊を計画している。創刊号は144ページ、価格は3150円。問い合わせは、丸善出版書籍営業部(03・33512・3256)へ。

この度は「Kindai Management Review」のご創刊を心よりお祝い申し上げます。ご存じの通り、我が国の学者による世界への発信力は弱く、それは長年、改善されておられません。近年、ようやく英文でのジャーナルを発行する動きが出てきておりますが、なかなか実現できていないのが現状です。しかし、近畿大学経営イノベーション研究所は、この問題に早くから注目し、発信力の強化を設立主旨に盛り込み、努力してこられました。この度の、「Kindai Management Review」の創刊は、まさにこの主旨に沿った勇氣あるチャレンジであると思います。今後ますます、日本の学界・産業界から期待されることでしょう。貴研究所のこのような勇氣ある行動を称え、また、それを財政面で支える近畿大学に敬意を表します。今後、日本においてこのようなイノベーションを起こす大

一橋大学名誉教授 野中郁次郎

このたびの英文査読雑誌の創刊は、日本の大学としては画期的なことです。この雑誌が若い経営学者の登竜門となることを期待しています。われわれの世代では、野中先生の国際的な活躍が突出しています。この雑誌を踏み台にして第2、第3の野中先生が出現することを期待しています。

甲南大学特別客員教授 加護野忠男

まず斬新な学術雑誌の公刊をお喜び申し上げます。野中先生、加護野先生などを含むイノベーション研究のリーディングスカラーの叢智を結集した学術雑誌であり、わが国はもとよりグローバルにも最先端なイノベーション研究として高く評価されることでしょう。これを機に、近畿大学でのイノベーション研究がますます促進されることを祈念申し上げます。

同志社大学特別客員教授 古賀智敏

このたびは、貴研究所機関誌の創刊号として発刊されたこと心よりお祝い申し上げます。経営学のリーダーでいらっしゃる国内外の先生方の最新の論文を英語で出版されたことは、貴研究所の社会的存在の重要性を証明するものと拝察いたしております。

筑波大学名誉教授 渡辺三枝子

貴誌「Kindai Management Review」を先日拝受いたしました。海外への発信という御趣旨には100%賛成でございます。現在会長の組織学会でも、海外発信強化を第一のテーマとしております。東京大学関連で発行しておりますオンラインジャーナルABASも同様の趣旨でございます。ますますのご発展を祈念致します。

東京大学経済学部教授 藤本隆宏

このたびは、素晴らしい英文ジャーナルのご創刊おめでとうございます。私も研究所でこのような英文ジャーナルをやりたいと思っていたので、非常な刺激を受けました。今後も情報交換と交流をしていきましょう。

桜美林大学北東アジア総合研究所所長 川西重忠

「Kindai Management Review」を確かに拝受しました。執筆者を拝見しますと、世界的規模で有名な先生方が投稿しておられ、その質の高さに感服しました。研究所もこれから世界的に発展すると確信いたしました。

大阪国際大学教授 奥林康司

[著書]

2010年

(7月)

桂眞一(共著)

『基礎から学ぶ資本市場論 I』

創成社



2011年

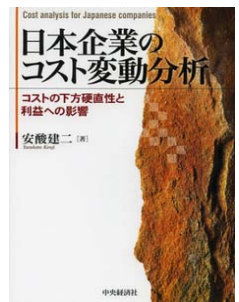
(3月)

浦崎直浩(共編著)『これから学ぶ会計学』中央経済社

中谷常二(編)『ビジネス倫理学読本』晃洋書房

(11月)

桂眞一(共著)『基礎から学ぶ資本市場論 II』創成社



2012年

(11月)

安酸建二『日本企業のコスト変動分析—コストの下方硬直性と利益への影響—』中央経済社

2013年

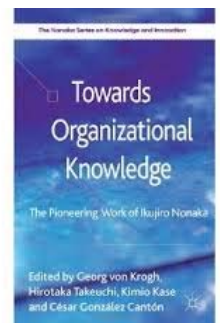
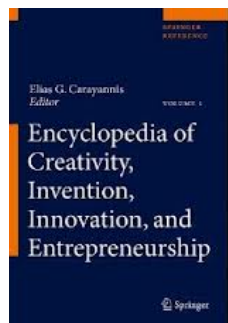
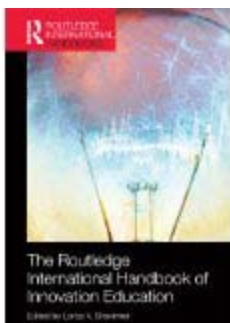
(5月) 徐方啓(分担執筆)『The Routledge International Handbook of Innovation Education』Routledge

(6月) 徐方啓(分担執筆)『Encyclopedia of Creativity, Invention, Innovation, and Entrepreneurship』Springer

(7月) 徐方啓(分担執筆)『勃興するアジアと日中関係』桜美林大学北東アジア総合研究所

(8月) 徐方啓(共著)『アジア最強の経営を考える—世界を席卷する日中韓企業の戦い方』ダイヤモンド社

徐方啓(分担執筆)『Towards Organizational Knowledge: The Pioneering Work of Ikujiro Nonaka』Palgrave Macmillan



[国際発表(論文含む)]

2010年

- (6月) 田中智泰(共著):「Productivity Effects and Determinants of Public Infrastructure Investment」*Annals of Regional Science*, Vol. 44, No. 3, pp. 493-521.
- (9月) 東郷寛(共著):①「The Changing Local Governance Triggered by the Great Earthquake」、②「Improvement of IT Usability through Interactive and Reflective Practice between Citizen Users and Public Officials」The 32nd European Group for Public Administration Annual Conference で口頭発表(フランス・トゥールーズ)。

2011年

- (4月) 安酸建二:「Are “Sticky Costs” the Result of Deliberate Decision of Managers?」European Accounting Association 34th Annual Congress 2011で口頭発表(イタリア・ローマ)。
- (8月) 徐方啓:「The Strengths and Weaknesses of Japanese Innovation」The 7th International Symposium on Global Manufacturing and Chinaで口頭発表(中国・杭州)。
田中智泰(共著):「The Impact of Governance Structure on Firm Performance: Evidence from Japanese Local Mixed Enterprises」The 51th Congress of the European Regional Science Associationで共同発表(スペイン・バルセロナ)。
- (9月) 徐方啓(共著):「Wahaha Group’s Management Innovation」The 12th European Conference on Creativity and Innovationで口頭発表(ポルトガル・ファロ)。
東郷寛(共著):①「Institutionalization of new community empowerment and local infrastructure organizations: a case study of Kobe after the Great Hanshin Earthquake」、②「Community Empowerment Promoted by Interactions between Community Media and Users: A case study of regional informatization in Japan」The 33rd European Group for Public Administration Annual Conference で口頭発表(ルーマニア・ブカレスト)。
- (10月) 浦上拓也(共著):「The effects of consolidation amongst Japanese water utilities: A hedonic cost function analysis」*Urban Studies*, Vol.48, No.13, pp.2807-2827.
- (11月) 安酸建二:「Cost Stickiness and Managers’ Forecasts of Future Sales」7th Asia-Pacific Management Accounting Association 2011 Annual Congressで口頭発表(マレーシア・シャアラム)。

2012年

- (3月) 浦崎直浩:「Accounting Education Issues in Japan and Its Future Shape」*East Asian Accounting Studies*, No.1, pp.23-35.
- (9月) 徐方啓:「Huawei Technologies’ Creative Management and Innovation」The 11th International Entrepreneurship Forumで口頭発表(マレーシア・クアラルンプール)。
東郷寛(共著):①「Media Enabler: In what ways can we create conditions to form and mobilize shared contexts in motion (‘Ba’) in regional society?」、②「Formation and Change of Frame as the Platform of Public Private Partnership」The 34th European Group for Public Administration Annual Conference で口頭発表(ノルウェー・ベルゲン)。
- (12月) 中谷常二:「Why Kyosei is the paradigm of Japanese CSR?」The 4th World Business Ethics Forumで口頭発表(中国・香港)。

≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ 研究成果 ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡

2013年

- (7月) 徐方啓:「日本創意産業之概観」*社会経済發展研究*、第2号、pp.114-119。
荒川一彦・東郷寛「Regional development through all-round empowerment: An examination of regional enabling conditions for Brazilian migrant workers in Japan」*European Urban Research Association Conference 2013* で口頭発表(オランダ・エンスヘーデ)
- (9月) 徐方啓:「A Review of Creative Industries in Japan」*The 12th International Entrepreneurship Forum Conference*で口頭発表(リトアニア・ヴィリニユス)
安酸建二:「A longitudinal case study of target cost management implementation at a shipbuilding company」*Journal of Accounting & Organizational Change*, Vol.9, No.4, pp.448-470
- (11月) 浦崎直浩:「Accounting for Small- and Medium-Sized Entities in Japan and U.S., International Conference on Environmental Changes in Accounting and Responses to the Changes in the 21st Century」*Accounting Research Institute of Northeast Asia*で口頭発表(韓国・大邱)

2014年

- (1月) 安酸建二:「Management Forecasts in Japan: Do Managers Accurately Estimate Costs when They Issue Management Forecasts?」*American Accounting Association 2014 Annual Congress*で口頭発表(アメリカ・オーランド)
- (3月) 浦崎直浩:「Institutions and accounting standard transformation: Observations from Japan」*China Journal of Accounting Research*, Vol.7, Issue 1, pp.51-64.

≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ 国際交流 ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡ ≡

2010年

- (10月) Jonathan Feinsteinアメリカエール大学教授、Bonnie Cramondアメリカジョージア大学教授、Min Basadurカナダマクマスター大学名誉教授、Horst Geschkaドイツゲシュカ&パートナーズ社会長、顧基發中国科学院教授、李嘉曾マカオ科技大学教授、羅玲玲中国東北大学教授、Mathew Manimalaインドバンガロール経営大学教授、朴在鎬韓国嶺南大学教授、Igor Dubinaロシアアルタイ州立大学准教授、Kirpal Singhシンガポール経営大学院准教授が本研究所顧問として研究所のオープニングセレモニーに出席。
- (11月) 安酸建二・桂眞一・浦崎直浩:中国中山大学管理学院および広州大学商学院を訪問し、「A Change from off-balance to on-balance: Does the change in Leases Debt Treatment Affect Investors' Assessment of Equity Risk?」を講演。
- (12月) 浦崎直浩:「中国会計準則の適用状況と日本会計コースの運営の現状の調査」のため、中国東北財経大会計学院を訪問し、方紅星院長、王春山副教授他と交流。

2011年

- (1月) 浦崎直浩:「韓国におけるIFRSのアドプションの状況と大学におけるIFRS教育の調査」

≈ ≈ ≈ ≈ ≈ ≈ ≈ ≈ ≈ 国際交流 ≈ ≈ ≈ ≈ ≈ ≈ ≈ ≈ ≈

のため、韓国大邱市にある啓明大学北東アジア会計研究所を訪問し、所長の都相昊教授、安洪福教授、金姫玟講師と交流。

- (10月) 中国浙江工商大学凌志准教授は研究員として来訪し、2012年9月まで滞在、指導教授徐方啓。
- (11月) 東アジア会計研究フォーラムに参加するために、中国東北財政大会計学院方紅星教授、呉大軍教授、王春山准教授、耿璋准教授、および韓国啓明大学都相昊教授、金姫玟教授が来訪。

2012年

- (1月) 徐方啓: インドバンガロール経営大学が発行する「*South Asian Journal of Management*」の編集委員に就任。
浦崎直浩・安酸建二・桂真一: 中国の立信会計学院および中欧工商管理学院の学部と大学院における会計学教育の現状についての調査のため訪問。
- (9月) 徐方啓: 野中郁次郎名誉所長とともに韓国ソウル大学国際大学院を訪問し、金顕哲教授と交流。
- (11月) 浦崎直浩: 「オーストラリアにおける統合報告の現状についての調査」のため、シドニー大学、KPMGシドニー事務所、オーストラリア勅許会計士協会(ICAA)、オーストラリア実務会計士協会(CPA Australia)、メルボルン大学、ディーキン大学を訪問し、聞き取り調査と関係資料の収集を行った。

2013年

- (4月) 徐方啓: マカオ城市大学を訪問し、「2013 Macao International Forum of Cultural Creative Industry」で基調講演を行い、特別招聘教授に就任。
- (10月) 徐方啓: ロシアアルタイ州立大学(Altai State University)が発行するジャーナル「Izvestiya of ASU」の編集委員に就任。

2014年

- (2月) 浦崎直浩: 中国中山大学を訪問し、会計教育に関する調査を実施し、副学長魏明海教授他と交流。
- (3月) 浦崎直浩: 中国華東理工大学、厦門大学、厦門城市職業学院、集美大学を訪問し、会計教育に関する調査を実施。胡仁昱教授、劉峰教授、桑士俊教授他と交流。

近畿大学経営イノベーション研究所
ニューズレター(2014年3月発行)

発行人: 徐方啓

編集担当: 中谷常二、芳澤輝泰

〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1

近畿大学東大阪キャンパス21号館7階

Tel: (06)-4307-3046

Fax: (06)-6729-2493

Email: icmi@bus.kindai.ac.jp

<http://www.kindai.ac.jp/sangaku/kenkyu/icmi/>

